

## コアジサシは爆音機を利用した？。

武田恵世（日本野鳥の会 三重県）

コアジサシは環境省により絶滅危惧 類に指定されているカモメ科アジサシ属の希少鳥類で、全国の海岸や河川の砂礫地に営巣する夏鳥である。

現在までの調査により、植被率約 30%以下で、約 1ha 以上の裸地に成鳥約 500 羽以上が集中した場合に繁殖成功率が高いことがわかっている。

昨年発表した三重県四日市市の霞埋立地には本年もコアジサシが多数営巣した。6月 25 日には、成鳥約 1,000 羽を確認し、116 巣を確認した。

当地には約 28ha の裸地があるが、その中で、営巣場所は局在が認められた。昨年度は、一面に黒色の浚渫土が入れられており、アシや流木など白っぽいものが比較的多い場所に巣が局在していたが、今年度は、全体に白色の山砂が入れられていたので、ほぼ一面に営巣が認められたが、大きくは 4ヶ所に集中していた。

営巣が集中している場所と、営巣のない場所の環境条件を比較してみると、営巣がない場所は、常に重機が稼働している場所、常に水がたまっている場所などであったが、中に 2ヶ所、周辺より、水はけが良く、植被率も低いにも関わらず、全く営巣が見られなかった場所（各約 2ha）があった。

この場所と、営巣が集中していた場所、4ヶ所を比較検討すると、営巣が集中していた場所はむしろ、大雨の時、水の流れが発生したり、水没しやすく、植被率がむしろ高かった。

その環境条件の違いを更に詳細に比較検討してみたが、その大きな違いは、爆音機があるかどうかであると考えられた。すなわち、爆音機が設置されている場所に営巣が集中し、爆音機が設置されていないところには全く営巣が見られなかったのである。

営巣が集中していた場所では、爆音機のわずか 3m のところにも営巣が見られた。爆音機は、コアジサシが渡来する時期である 4月 20 日に 6台設置され、それぞれ約 10 分おきに、かなり大きな音を発し、埋立地全体では約 3分おきに爆音が響く。私が観察をはじめた 6月には、爆音による、コアジサシの注目や飛び立ちなどの反応は全く観察されず、完全に慣れてしまっているものと考えられた。当地で繁殖しているコチドリ、シロチドリ、ケリについても同様であった。7月以後はスズメ約 300 の群が見られたが、やはり爆音機の爆音に対して、注目や飛び立ちなどの反応は全く観察されなかった。

爆音機周辺に営巣が集中し、爆音機がない場所に営巣が見られなかった理由であるが、爆音機により、天敵である、トビ、カラス、ノネコ、野犬などが近づかないので、その効果を利用しているのではないかと考えられた。

昨年度は、トビやカラスによるヒナや卵の捕食が時々観察され、トビは約 6羽、ハシブトガラスが約 10羽見られたが、今年度はトビやカラスは全く見られなかった。

今回の観察結果から、爆音機は、コアジサシなどの営巣を阻害する効果は全くなく、むしろ、営巣を支援したと考えてよいと考えられる。